【基本情報】

教　　科	理　科	学　年	３年	教科書	改訂版　物　理（数研出版）
科　　目	物　理	単位数 (年間予定コマ数)	4 (128)	副教材	リードα物理基礎・物理（数研出版編集部）
科目概要	１．平面運動，運動量，円運動，万有引力，気体分子の運動など様々な物体の運動 ２．水面波・音・光などの波動現象 ３．電気や磁気に関する現象 ４．電子・原子および原子核に関する現象				
到達目標	１．力と運動に関する概念・原理・法則を系統的に理解し，活動できるようになる。 ２．波動現象の基本的な概念・法則を系統的に理解し，日常生活と関連づけて考察できるようになる。 ３．電気と磁気に関する基本的な概念・原理・法則を系統的に理解し，日常生活と関連づけて考察できるようになる。 ４．原子についての基本的な概念・原理・法則が理解できる。				
授業の進め方	・基本的な要点をもとに説明を行い，演習問題や小テストを通して理解と定着をはかります。 ・実験観察を通して，実験の基本を身につけ，科学に対する興味や関心を深めていきます。 ・問題演習時や観察・実験時は，協同的な学習（話し合いや教え合い，学び合い）を推奨します。 ・実験，観察をとおして理解したこと，または疑問が生じたことを，表現する場をつくります。				
留意事項	・授業に必要な教材（教科書，ノート，プリント，ファイル，問題集等）は毎時間準備すること ・実験には、積極的参加し、班で行う場合は、班員と協力して進めて行く。 ・忘れものがないように心掛ける。忘れ物をした場合は、事前に申し出ること。 ・授業中質問をするので、説明をよく聞き、積極的に授業に参加すること。 ・提出物の期限を守ること。 ・基礎的事項について，適宜小テストを実施します。				
家庭学習	・予習で疑問点を発見し、授業で解決できないところを復習するサイクルを解決すること。				
備　　考					

【評価の方法】

観　点	ポイント	割　合	評価項目
A．関心・意欲・態度	物理学的現象に関心・探求心を持てているか。	２０％	授業ワークシート・観察・実験での取り組み状況やレポート，小テスト，定期考査など，随時観点別項目を設定し評価する。
B．思考・判断・表現	物理学的現象を科学的に考察し，導き出した考えを的確に表現できているか。	３０％	
C．観察・実験の技能	観察・実験において，器具機材の基本的操作を身に付け，結果を記録・整理できているか。	１０％	
D．知識・理解	物理学的現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し，その知識が身についたか。	４０％	

【年間計画】

単　元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
第３編　波							
第１章　波の伝わり方	１１	正弦波，波の伝わり方	○			○	・正弦波の表し方について理解できる。
第２章　音の伝わり方	１１	音の伝わり方，ドップラー効果	○			○	・音のドップラー効果について理解できる。
第３章　光	１１	光の性質	○			○	・光の伝わり方について理解すること。
		●実験　ガラスの屈折率の測定		○	○		
		レンズ	○			○	
		●実験　凸レンズの焦点距離の測定		○	○		
		光の干渉と回折	○			○	・ヤングの実験，回折格子に理解できる。
		●観察　回折格子による光の干渉		○	○		
第４編　電気と磁気							
第１章　電場	１１	静電気力，電場，電位	○			○	・クーロンの法則，電場と電位の関係を理解できる。
		●実験　等電位線の測定		○	○		
		物質と電場，コンデンサー	○			○	・コンデンサーの性質を理解できる。
第２章　電流	１１	オームの法則，直流回路，半導体	○			○	・電流回路について理解できる。
第３章　電流と磁場	１１	磁場，電流のつくる磁場	○			○	・電流がつくる磁界の様子を理解できる。
		電流が磁場から受ける力	○			○	・電流と磁場の相互作用について理解できる。
		●実験　クリップモーターの製作		○	○		
		ローレンツ力	○			○	
第４章　電磁誘導と電磁波	１１	電磁誘導の法則	○			○	・電磁誘導について理解できる。
		交流の発生	○			○	
		自己誘導と相互誘導	○			○	
		交流回路，電磁波	○			○	・電磁波の性質と利用について理解できる。
第５編　原子							
第１章　電子と光	１２	電子，光の粒子性，Ｘ線	○			○	・電子の発見の歴史について理解できる。
		粒子の波動性	○			○	・粒子性と波動性について理解できる。
第２章　原子と原子核	１４	原子の構造とエネルギー準位	○			○	・原子の構造とエネルギー準位について理解できる。
		原子核，放射線とその性質	○			○	
		核反応と核エネルギー	○			○	・核反応について理解できる。
		素粒子	○			○	・素粒子の存在について理解できる。
		物理学が築く未来	○			○	・科学技術が社会の基盤となっていることを理解できる。
共通テスト対策	１６	過去問や予想問題の演習	○			○	・共通テストで７割以上の得点を目標にする。
（家庭学習期間）	９						

【基本情報】

教　　科	理　　科	学　年	３年	教科書	化学　（啓林館）
科　　目	化学	単位数 (年間予定コマ数)	4 (128)	副教材	六訂版　リードα化学基礎＋化学（数研出版） 三訂版　スクエア最新図説化学（第一学習社）
科目概要	・化学的な事物・現象に対する探究心を高め、基本的な概念や原理・法則の理解を深める。また、化学基礎で学習した内容を、さらに発展的な学習をすることによって化学基礎への理解をさらに深める。				
到達目標	・気体、液体、固体の性質を観察、実験などを通して探究し、物質の状態変化、状態間の平衡、溶解平衡及び溶液の性質について理解できる。 ・化学変化に伴うエネルギーの出入り、反応速度および化学平衡をもとに化学反応に関する概念や法則を理解できる。 ・無機物質の性質や反応を観察・実験などを通して探究し、元素の性質が周期表に基づいて整理できることを理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察することができる。				
授業の進め方	・教科書の内容を基本的な要点をもとに説明を行い、演習問題や小テストを通して理解と定着をはかります。 ・実験観察を通して、実験の基本を身につけ、理科に対する興味や関心を深めていきます。				
留意事項	・毎時間、　教科書・ノート　を持ってくること。 ・授業の内容をよく聞き、理解し、教科書・副教材の問題演習に取り組む。 ・提出物の期限を守ること。期限に遅れた場合は、減点になる場合がある。 ・小テストは、理解して欲しいことや覚えて欲しいことなどについて基本的な内容で行うので、学習してくること。				
家庭学習	・履修した内容について、教科書と副教材の問題演習を家庭学習において解いてください。				
備　　考	・日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味をもち，その法則性について考える態度をもつこと。 ・疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。 ・学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。				

【評価の方法】

観　　点	ポイント	割　合	評価項目
A．関心・意欲・態度	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身につけている。	２０％	授業ワークシート・観察・実験での取り組み状況やレポート、小テスト、定期考査など、随時観点別項目を設定し評価する。
B．思考・判断・表現	物質とその変化の中に問題を見いだし、探究する過程を通して､事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	３０％	
C．技能	観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身につけている。	２０％	
D．知識・理解	物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を整理し､知識を身につけている。	３０％	

【年間計画】

単　元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
＜3年通期＞ 化学							
第４章 溶液の性質	7	溶解平衡と溶解度		○		○	・固体と気体の溶解度を求めることができる。
		希薄溶液の性質、コロイド		○		○	・濃度と沸点、凝固点の関係やコロイドの性質を理解できる。
第2部 物質の変化と平衡							
第１章 化学変化と熱・光エネルギー	7	反応熱と熱化学方程式		○		○	・ヘスの法則を用いて反応熱を求めることができる。
		光とエネルギー、ヘスの法則		○		○	・化学エネルギーの差と発生や吸収について理解できる。
		●探究活動　ヘスの法則の検証	○		○		
第２章 化学反応と電気エネルギー	１０	電気分解		○		○	・電気分解における電極での反応を電子を用いて考えることができる。
		●探究活動　電気分解	○		○		
		電池		○		○	・酸化還元反応によって電気エネルギーを取り出す仕組みを理解できる。
第３章　反応速度	１１	反応速度化学反応と触媒		○		○	・反応速度と濃度、温度との関係が理解できる。
第４章　化学平衡	１１	平衡とその速度		○		○	・平衡移動の原理を理解できる。
		電離平衡		○		○	・ｐＨや弱酸、弱塩基の電離平衡について理解できる。
第３部 無機物質		周期表と元素の性質、水素と希ガス		○		○	・非金属元素の単体や化合物の性質を理解できる。
第１章 非金属元素と周期表	8	ハロゲン、酸素・硫黄、窒素・硫黄、		○		○	・典型元素の性質を周期表と関連させて考えることができる。
		炭素・ケイ素とその化合物		○		○	
		アルカリ金属、２族元素とその化合物		○		○	・典型金属元素の単体や化合物について，その性質や用途を理解できる。
第２章 典型金属元素	9	アルミニウム・亜鉛などとその化合物		○			
		遷移元素の特徴		○		○	・遷移元素の特徴を理解し日常生活と関連させて考えることができる。
第３章 遷移元素	9	金属イオンの分離と確認		○		○	
		●探究活動　金属イオンの分離	○		○		
		金属の利用、セラミックス		○		○	・身の回の金属について、その性質から考えることができる。
第４章 生活と無機物質	3						
第４部 有機化合物							
第１章 有機化合物の特徴と構造	１５	有機化合物の特徴と構造	○	○			・有機化合物の特徴から、身の回りにどのように応用されているか考えることができる。
		有機化合物の分析	○	○			
第２章 脂肪族炭化水素		飽和炭化水素、不飽和炭化水素	○	○			
第３章 酸素を含む脂肪族化合物		アルコールとエーテル、アルデヒドと	○	○			
		ケトン、カルボン酸とエステル	○	○			
第４章 芳香族化合物		芳香族炭化水素	○	○			
第５章 生活と有機化合物		医薬品、染料・洗剤、糖類とアミノ酸	○	○			
第5部 高分子化合物							
第１章 高分子化合物の分類と特徴	１５	高分子化合物の分類と特徴	○	○			・高分子化合物の特徴から、身の回りにどのように応用されているか考えることができる。
第２章 合成高分子化合物		合成繊維、プラスチック、ゴム	○	○			
第３章 天然高分子化合物		糖類、タンパク質、核酸、繊維	○	○			
第４章 生活と高分子化合物		衣料、高分子化合物の利用	○	○			
共通テスト・２次対策	２３	共通テスト・２次対策演習		○		○	

【基本情報】

教　　科	理　　科	学　年	３年	教科書	改訂版　生物（数研出版）
科　　目	生　　物	単位数 (年間予定コマ数)	4 (128)	副教材	セミナー生物（第一学習社）
科目概要	第３編　生物の環境応答 第４編　生物と環境 第５編　生物の進化と系統	第５章　動物の反応と行動 第７章　生物群集と生態系 第８章　生命の起源と進化		第６章　植物の環境応答 第９章　生物の系統	
到達目標	・生物個体が外界の変化を感知し、それに反応する仕組みを理解できるようになる。 ・生物の個体群と群集及び生態系の構造や変化の仕組みを理解することにより、生態系のバランスや生物多様性の重要性について認識する。 ・生物界の多様性と系統を理解することにより、進化についての考え方を身に付ける。 ・大学入学共通テストで全国平均を上回る学力をつける。（模試では平均偏差値５５以上）				
授業の進め方	・基本的に教科書に沿って進む。 ・教科書の実験の内容の一部は実験を行う。実験後はレポートを提出すること。 ・板書中心の授業展開になるので板書した内容を全てノート等に写すこと。				
留意事項	・教科書とセミナー（問題集）は併用して使用するので、教科書で基本事項を理解し、セミナーで更に理解を深め、応用力をつけること。 ・教科書とノートを必ず用意すること。問題集を使用する場合は事前に連絡する。 ・定期的にノート提出を行う。板書した内容を全てノートに写すこと。 ・実験・観察に意欲的に参加し、必ず実験レポートを提出すること。またその際、提出期限を守ること。 ・実験のときなどの教室移動は休み時間のうちに行い、始業と同時に速やかに授業が行えるようにすること。 ・忘れ物がないようにすること。もし、忘れ物がある場合は、事前に申し出ること。				
家庭学習	・問題集は、授業の進度に合わせて各自で解くようにすること。				
備　　考					

【評価の方法】

観　点	ポイント	割　合	評価項目
A．関心・意欲・態度	生物や生物現象について関心や探求心をもち、主体的に探求しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	２０％	授業ワークシート、実験、観察時のレポート、小テスト、定期試験問題など、随時観点別評価項目を設定し、評価する。
B．思考・判断・表現	生物や生物現象の中に問題を見いだし、探求する過程を通して､事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	３０％	
C．観察・実験の技能	生物や生物現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探求する技能を身に付けている。	２０％	
D．知識・理解	生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けている。	３０％	

【年間計画】

単　元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
第５章　動物の反応と行動							
1　ニューロンとその興奮	6	ニューロンについて	○	○		○	外界の刺激を受容し神経系を介して反応する仕組みを理解する。
2　刺激の受容	5	刺激の受容について	○	○	○	○	
3　情報の統合	5	神経系について	○	○		○	
4　刺激への反応	8	効果器について	○	○		○	
5　動物の行動	8	生得的な行動、学習による行動について	○	○	○	○	刺激に対する反応としての動物の行動について理解する。
第６章　植物の環境応答							
1　植物の生活と環境応答	4	屈性と傾性について	○	○		○	植物が環境変化に反応する仕組みを理解する。
2　発芽の調節	7	発芽の調節について	○	○		○	
3　成長の調節	7	成長の調節について	○	○		○	
4　環境の変化に対する応答	7	植物ホルモンについて　刺激の受容と反応について	○	○		○	
5　花芽形成・結実の調節	7	植物の光に対する応答と花芽形成について	○	○		○	
第７章　生物群集と生態系							
1　個体群	6	個体群について	○	○		○	個体群とその変動について理解する。
2　個体群内の個体間の関係	4	個体群内の関係について	○	○		○	
3　異種個体群間の関係	4	異種個体群間の関係について	○	○		○	
4　生物群集	4	生態系について	○	○		○	生物群集の成り立ちについて理解する。
5　生態系における物質生産	5	生態系の物質生産について	○	○		○	生態系における物質生産とエネルギー効率について理解する。
6　生態系と生物多様性	4	生態系と生物多様性について	○	○		○	生態系における生物多様性に影響を与える要因を理解し、生物多様性の重要性を認識する。
第８章　生命の起源と進化							
1　生命の起源と初期の生物の変遷	5	生命の起源と生物の変遷について	○	○		○	生命の起源と生物進化の道筋について理解する。
2　多細胞生物の変遷	5		○	○		○	
3　進化のしくみ	7	進化の仕組みについて	○	○		○	
第９章　生物の**系統**							
1　生物の系統	4	生物の系統について	○	○		○	生物はその系統に基づいて分類できることを理解する
2　生物の多様性	7	生物の分類について	○	○		○	
共通テスト対策（家庭学習期間）	9	過去問や予想問題の演習					

【基本情報】

教　　科	理　　科	学　年	３年	教科書	
科　　目	ベーシック化学	単位数 (年間予定コマ数)	２ (64)	副教材	化学基礎（啓林館） チェック＆演習 化学基礎（数研出版） 進研 WINSTEP 化学基礎（ベネッセ）
科 目 概 要	・自然の事物・現象について観察、実験などを行うことを通して、自然に対する関心や探求心を高め、化学的に探求する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の系統的な理解を深め、科学的な自然観を育成する。				
到 達 目 標	・化学が人間生活に果たしている役割を理解できる。 ・原子の構造及び電子配置と周期律の関係を理解できる。 ・化学反応の量的関係、酸と塩基の反応及び酸化還元反応の基本的な概念や法則が理解できるとともに、日常生活や社会と関連付けて考察できる。 ・物質の状態変化、平衡および溶液の性質について理解できるとともに、日常生活や社会と関連づけて考察できる。 ・探究活動を行い学習内容を深めるとともに、化学的に探究する能力を高める。				
授業の進め方	・教科書の内容を基本的な要点をもとに説明を行い、化学基礎の内容にある発展的な内容を学習する。 ・実験観察を通して、実験の基本を身につけ、理科に対する興味や関心を深めていく。				
留 意 事 項	・毎時間、教科書・ノート　を持ってくること。 ・授業の内容をよく聞き、理解し、教科書・副教材の問題演習に取り組む。 ・実験には、積極的参加し、班で行う場合は、班員と協力して進めて行く。 ・忘れものがないように心掛ける。忘れ物をした場合は、事前に申し出ること。 ・授業中質問をするので、説明をよく聞き、積極的に授業に参加すること。 ・提出物の期限を守ること。期限に遅れた場合は、減点になる場合がある。 ・小テストは、基本的に理解して欲しいことや覚えて欲しいことなどについて行うので、必ず学習してくること。				
家 庭 学 習	・履修した内容について、教科書と副教材の問題演習を家庭学習において解くこと。 ・実験書を基に、実験前の予習を行い、実験後については結果の整理や考察などをまとめる。				
備　　考	・学期末・学年末の評価については、下記の４観点を１００点法で換算し、５段階でつける。				

【評価の方法】

観　　点	ポイント	割　合	評価項目
Ａ．関心・意欲・態度	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身につけている。	２０％	授業・観察・実験での取り組み状況や発言内容、課題提出状況で判断する。
Ｂ．思考・判断・表現	物質とその変化の中に問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	２０％	授業での発言内容や、定期考査の中で、思考・判断・表現に関わる問題を出題する。
Ｃ．観察・実験の技能	物質とその変化に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身につけている。	４０％	観察・実験において、基本操作を習得しているかどうかを見きわめ、提出されたレポートの作成・提出状況で評価する。
Ｄ．知識・理解	物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を整理し、知識を身につけている。	２０％	観察・実験の中で、知識・理解に関わる問題を出題する。

【年間計画】

単　元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
＜第１部 化学と人間生活＞							
第１章 化学と私達の生活	3	酸化銅（Ⅱ）の還元	○	○			・酸化銅（Ⅱ）が金属の銅に変わったことが確認できる。
	3	洗剤の濃度	○	○			・目的に応じて適切な洗剤の濃度があることが理解できる。
第２章 物質の状態	3	ろ過と再結晶による物質の分離・精製			○		・混合物と純物質の違いと分離を考えることができる。
	3	炎色反応	○	○			・炎色反応により含まれる金属イオンを調べることができる
	3	物質の三態					・物質の三態と熱の関係、物質の変化と絶対温度について考えることができる。
	3	いろいろなプラスチックと金属	○		○		・いろいろなプラスチックやアルミニウムの性質を調べることができる。
＜第２部 物質の構成＞							
第１章 物質の構成粒子	2	電子殻の発見（スペクトル）	○	○			・原子の構造と電子配置について考えることができる。
	2	簡易分光器の製作			○		・簡易分光器を製作し、観察することができる。
第２章 化学結合	2	イオン結晶の性質	○	○			・イオン結晶は陽イオンと陰イオンが静電気的な引力で規則正しく結合していることが理解できる。
	2	電子の軌道と分子の形	○	○			・共有結合と混成軌道の関係を理解できる。
		分子間力に働く力					・ファンデルワールス力、水素結合などの分子間力を理解できる。また、水の特性を理解できる。
	2	化学結合と物質の性質	○	○			・構成している原子の種類で物質の性質が決まることが理解できる。
＜第３部 物質の変化＞							
第１章 物質量と化学反応式	3	化学変化の量的関係	○	○			・化学反応式の係数から、一定量の気体の発生に必要な物質の物質量を計算し検証できる。
	2	化学の基礎法則と原子説・分子説	○	○			・物質の量や化学変化での量的関係の諸法則を理解できる。
第２章 酸と塩基	2	水のイオン積とｐＨ					・水のイオン積を理解できる。また、常用対数を用いて水素イオン指数ｐＨを求めることができる。
第３章 酸化還元反応	4	酸化還元反応	○	○			・様々な酸化還元反応を通して酸化数や電子の授受を考察できる。
	4	金属のイオン化傾向		○	○		・金属と金属イオンの水溶液や酸との反応から、イオン化傾向の大小を考察できる。
実践問題演習	１０	実践問題演習				○	
家庭学習期間	１１						

【基本情報】

教　　科	理　　科	学　年	３年	教科書	
科　　目	ベーシック生物	単位数 (年間予定コマ数)	２ (64)	副教材	改訂版生物基礎（数研出版） リードα生物基礎（数研出版）
科目概要	第１編　生物と遺伝子 第１章　生物の特徴　　第２章　遺伝子とその働き 第２編　生物の体内環境の維持 第３章　生物の体内環境				
到達目標	・細胞の働き及びＤＮＡの構造と機能の概要を学ぶことにより、生物についての共通性と多様性の視点を身につける。 ・生物には体内環境を維持する仕組みがあることを学ぶことにより、体内環境の維持と健康との関係について理解できるようになる。 ・大学入学共通テストで全国平均を上回る学力をつける。（模試では平均偏差値５５以上）				
授業の進め方	・基本的に問題集に沿って進む。 ・問題の解き方や重要事項を説明するので、ノートやプリントに整理すること。				
留意事項	・教科書と問題集は併用して使用するので、教科書で基本事項を理解し問題集で更に理解を深め応用力をつけること。 ・問題集と教科書を必ず用意すること。 ・定期的にノートやプリントの提出を行うので必ず提出期限を守り提出すること。 ・忘れ物がないようにすること。もし、忘れ物がある場合は、事前に申し出ること。				
家庭学習	・１年次に既習の内容がほとんどのため、授業での説明の前に問題を解いておくこと。				
備　　考					

【評価の方法】

観　点	ポイント	割　合	評価項目
Ａ．関心・意欲・態度	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、生物の共通性と多様性を意識するなど、科学的な見方や考え方を身につけている。	２０％	授業ワークシート、実験、観察時のレポート、小テスト、定期試験問題など、随時観点別評価項目を設定し、評価する。
Ｂ．思考・判断・表現	生物や生物現象の中に問題を見いだし探求する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	３０％	
Ｃ．観察・実験の技能	生物や生物現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探求する技能を身に付けている。	２０％	
Ｄ．知識・理解	生物や生物現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	３０％	

【年間計画】

単　元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
第１章　生物の特徴							
１ 生物の多様性と共通性	２	生物の多様性と共通性、生物の基本的な特徴、細胞について	○	○		○	生物は多様であること、多様な生物にも細胞構造をもつなど共通性があること、その共通性は共通の起源をもつことに由来することを理解する。さらに、酵素のはたらき、光合成と呼吸の学習を通して、生物が代謝によってエネルギーを取り出していることを理解する。
		生命活動とエネルギー、代謝と酵素について	○	○		○	
２ 細胞とエネルギー	２	光合成、呼吸について	○	○		○	
第２章 遺伝子とそのはたらき							
１ 遺伝現象と遺伝子	３	遺伝情報を担う物質 DNA、DNA の構造について	○	○		○	遺伝子の本体である DNA について、構造および遺伝情報はその塩基配列にあることを理解する。次に転写と翻訳の概要から、生命現象において重要なタンパク質の合成について理解する。さらに、遺伝情報は正確に複製されて受け継がれること、それぞれの細胞ではすべての遺伝子が発現しているわけではないことについて理解する。
２ 遺伝情報の複製と分配	３	細胞分裂と遺伝情報の分配について	○	○	○	○	
３ 遺伝情報とタンパク質の合成	６	遺伝情報とタンパク質、RNA のはたらき、タンパク質の合成について	○	○		○	
		DNA の遺伝情報と遺伝子、ゲノムについて	○	○		○	
第３章 生物の体内環境							
１ 体液とその働き	５	体内環境と恒常性、体液とその循環、血液の凝固、腎臓と肝臓の役割について	○	○		○	多細胞動物の体内の細胞にとって、体液は一種の環境（体内環境）である。体内環境がいかにしてほぼ一定に保たれているのか、また体内ではどのようなしくみがはたらき、どのように調節が行われているのか、循環系・腎臓と肝臓・自律神経系と内分泌系、免疫について理解する。
２ 生体防御	６	自然免疫、獲得免疫、免疫と病気について	○	○		○	
３ 体内環境の維持のしくみ	６	自律神経系とホルモンによる調節について	○	○		○	
			A	B	C	D	
第４章　バイオームの多様性と分布							
１ 生物の多様性とバイオーム	３	植生とその成り立ち、森林・草原・荒原について	○	○		○	植生について、その構造や、遷移とそのしくみについて理解する。さらに、地球上にはさまざまなバイオームが見られること、どのようなバイオームが分布するかは主に気温と降水量によって決まることを理解する。
２ バイオームの形成過程	３	植生の遷移、遷移の過程、遷移のしくみについて	○	○		○	
３ バイオームとその分布	３	気候とバイオーム、バイオームとその分布について	○	○		○	
第５章　生態系とその保全							
１ 生態系	４	生態系の成り立ち、さまざまな生態系、炭素の循環とエネルギーの流れ、窒素の循環について	○	○		○	生態系の成り立ち、生態系における物質循環とエネルギーの流れについて理解する。その上で、生態系はそのバランスが保たれていること、人類は生態系のバランスに大きな影響を与えていることなどを、身近な例から地球レベルの環境問題までを取り上げながら学習し、自然環境を保全することが大切であることを理解する。
２ 生態系のバランスと保全	４	生態系のバランスについて	○	○		○	
３ 生態系の保全	３	外来生物の移入、森林の伐採、生物濃縮、生態系の保全について	○	○		○	
問題演習	１０		○	○		○	

【基本情報】

教　　科	理　　科	学　年	３年	教科書	
科　　目	ベーシック地学	単位数 (年間予定コマ数)	２ (64)	副教材	地学基礎（啓林館） ニューステージ新地学図表（浜島書店） チェック＆演習 地学基礎（数研出版）
科 目 概 要	地球や地球を取り巻く環境についての基本的な概念や原理・法則について、身近な自然現象との関連を図りながら学習する。地学的な探究活動を通して、科学的な見方や考え方を身につける。				
到 達 目 標	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め，地学的に探究する能力と態度を身につける。地学の基本的な概念や原理・法則を理解し，科学的な見方や考え方を身につける。大学入学共通テスト「地学基礎」に対応するために必要とされる知識や思考力を身につける。				
授業の進め方	・教科書・図表を基にした講義を中心に授業を進める。 ・学習内容に関わる探究活動を行うことで、知識や理解の定着を図る。				
留 意 事 項	・教科書・副教材（図表・問題集）・ノート・ワークシート等を綴じるファイルを持ってくること。 ・グループで実習を行う際には、積極的参加しメンバーと協力すること。 ・忘れ物をした場合は、事前に申し出ること。 ・講義に対して、質問するなどの積極的な姿勢を歓迎する。 ・提出物の期限を守ること。期限に遅れた場合は、減点になる場合がある。				
家 庭 学 習	・家庭学習において、履修した内容について教科書や副教材の問題演習を通して必ず復習すること。				
備　　考	・評定については，下記の４観点を総合して５段階でつける。				

【評価の方法】

観　　点	ポイント	割　合	評価項目
Ａ．関心・意欲・態度	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境について関心を持ち、意欲的に探究しようとするとともに、地学的な事物や自然現象の概念について科学的な見方や考え方でとらえようとする。	２０％	授業ワークシート・観察・実験での取り組み状況やレポート、小テスト、定期考査など、随時観点別項目を設定し評価する。
Ｂ．思考・判断・表現	地球や地球を取り巻く環境に関する事物や自然現象に対して、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	３０％	
Ｃ．技能	地球や地球を取り巻く環境に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	２０％	
Ｄ．知識・理解	地球や地球を取り巻く環境について、基本的な概念や原理・法則を整理し、知識を身につけている。	３０％	

【年間計画】

単　元	配当時数	学習内容	観点別評価 A	観点別評価 B	観点別評価 C	観点別評価 D	到達目標
第１部 固体地球とその変動							
第１章 地球	5	・地球の概観およびその内部構造についての理解を深める。	○	○	○		・地球の形状や大きさ、その具体的な測定方法と原理を理解し、活用できる。
第２章 活動する地球	5	・地震や火山活動，火成岩の形成についての理解を深め、プレートテクトニクスと関連づけて考察する。	○	○	○	○	・プレートの分布と運動と大地形の形成について関連づけて理解する。 ・地震、火山、造山運動などの地殻変動のしくみを理解し、プレート運動との関連づけて考察できる。
第２部 移り変わる地球							
第１章 地球史の読み方	5	・堆積岩や変成岩の形成や、地層と地質構造の形成について学び，地球の歴史と関連づけて考察する。	○		○	○	・風化作用，流水の作用と地表の変化のしくみと、堆積岩の形成と分類について、関連づけて理解する。 ・地質構造（地層、断層、不整合等）の特徴と成因を理解し、地質構造と化石から生命や環境の変化を考察する。
第２章 地球生命の進化	5	・古生物の変遷と地球環境の変化を関連づけて考察する。	○	○		○	・地球の誕生から生物の出現にいたる地球の歴史について理解し、古生物の変遷と地球環境の変化を関連づけて考察できる。
第３部 大気と海洋							
第１章 大気の構造	4	・水と気象の関係についての理解を深める。	○		○		・水の状態変化と気象現象を関連づけて理解する。
第２章 太陽放射と大気・海水の運動	4	・地球全体のエネルギー収支について，大気の大循環や海水の循環と関連づけて考察する。	○	○		○	・大気・海洋の構造と大循環、また地球規模の熱の輸送について理解し、地球全体の熱収支と関連づけて考察できる。
第３章 日本で見られる季節の気象	4	・日本で見られる冬から春，夏から秋への季節の気象について、理解を深める。	○		○	○	・日本で見られる冬から春の気象について理解し、身近な気象現象と関連づけて理解する。
			A	B	C	D	
第４部 宇宙の構成							
第１章 太陽系と太陽	3	・太陽系の誕生について理解し，太陽の表面の現象と太陽のエネルギー源及び太陽系の天体について理解する。恒星としての太陽の誕生と進化を理解する。	○	○		○	・太陽系の構造や構成天体の性質を、太陽系の誕生に関連づけて理解する。また、太陽の表面の現象と太陽のエネルギー源について理解を深める。
第２章 恒星としての太陽の進化	3		○	○		○	・恒星の明るさと色について理解し、恒星の誕生と進化についてＨＲ図を用いて説明できる。
第３章 銀河系と宇宙	3	・銀河系とまわりの銀河について学び，宇宙の誕生と銀河の分布について理解する。	○	○		○	・銀河系とまわりの銀河について理解し、宇宙の誕生と銀河の分布についての理解を深める。
第５部 自然との共生							
第１節 地球環境と人類	4	・人類が自然から多様な恩恵を受けていること、日本の自然災害と防災について理解する。	○	○	○		・人類が自然から多様な恩恵を受けていることを理解する。 ・日本の自然災害と防災について理解する。
第２節 日本の自然災害と防災	4		○	○	○		
第３節 地球環境に及ぼす人間活動の影響	4	・地球環境に及ぼす人間活動の影響について理解する。	○	○		○	・地球環境に及ぼす人間活動の影響について理解する。
総合問題演習	9	・各分野の知識・理解を関連づけて応用する。	○	○	○	○	・地学の各分野の知識・理解を関連づけて考察し、応用することができる。

【基本情報】

教　　科	理　　数	学　年	３年	教科書	
科　　目	ＳＳ理科Ⅲ （　物理分野　）	単位数 (年間予定コマ数)	３ (96)	副教材	改訂版 物理基礎（数研出版）　（数研・物基３０７） 改訂版 物　　理（数研出版）　（数研・物理３０４） リードα物理基礎・物理　（数研出版編集部）
科 目 概 要	１．平面運動，運動量，円運動，万有引力，気体分子の運動など様々な物体の運動 ２．水面波・音・光などの波動現象 ３．電気や磁気に関する現象 ４．電子・原子および原子核に関する現象				
到 達 目 標	１．力と運動に関する概念・原理・法則を系統的に理解し，活動できるようになる。 ２．波動現象の基本的な概念・法則を系統的に理解し，日常生活と関連づけて考察できるようになる。 ３．電気と磁気に関する基本的な概念・原理・法則を系統的に理解し，日常生活と関連づけて考察できるようになる。 ４．原子についての基本的な概念・原理・法則が理解できる。				
授業の進め方	・基本的な要点をもとに説明を行い，演習問題や小テストを通して理解と定着をはかります。 ・実験観察を通して，実験の基本を身につけ，科学に対する興味や関心を深めていきます。 ・問題演習時や観察・実験時は，協同的な学習（話し合いや教え合い，学び合い）を推奨します。 ・実験，観察をとおして理解したこと，または疑問が生じたことを，表現する場をつくります。				
留 意 事 項	・授業に必要な教材（教科書，ノート，プリント，ファイル，問題集等）は毎時間準備すること ・実験には、積極的参加し、班で行う場合は、班員と協力して進めて行く。 ・忘れものがないように心掛ける。忘れ物をした場合は、事前に申し出ること。 ・授業中質問をするので、説明をよく聞き、積極的に授業に参加すること。 ・提出物の期限を守ること。 ・基礎的事項について，適宜小テストを実施します。				
家 庭 学 習	・復習を中心に家庭学習をすることを推奨します。				
備　　考					

【評価の方法】

観　　点	ポイント	割　合	評価項目
Ａ．関心・意欲・態度	物理学的現象に関心・探求心を持てているか。	２０％	授業ワークシート・観察・実験での取り組み状況やレポート、小テスト、定期考査など、随時観点別項目を設定し評価する。
Ｂ．思考・判断・表現	物理学的現象を科学的に考察し，導き出した考えを的確に表現できているか。	３０％	
Ｃ．技能	観察・実験において，器具機材の基本的操作を身に付け，結果を記録・整理できているか。	２０％	
Ｄ．知識・理解	物理学的現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し，その知識が身についたか。	３０％	

【年間計画】

単　元	配当時数	学習内容	観点別評価 A	B	C	D	到達目標
＜３年前期＞	計４８						
第３編　波 第３章　光	８	光の性質	○			○	・光の反射，屈折，全反射，分散，スペクトル，散乱，偏光についてて理解できる。
		●実験　ガラスの屈折率の測定		○	○		
		レンズ	○			○	・レンズや鏡による像のでき方について理解できる。
		●実験　凸レンズの焦点距離の測定		○	○		
		光の干渉と回折	○			○	・ヤングの実験，回折格子について理解できる。
		●観察　回折格子による光の干渉		○	○		
第４編　電気と磁気 第１章　電場	１０	静電気力，電場，電位	○			○	・クーロンの法則，電場と電位の関係を理解できる。
		●実験　等電位線の測定		○	○		
		物質と電場，コンデンサー	○			○	・コンデンサーの性質を理解できる。
前期中間試験	１						
第２章　電流	８	オームの法則，直流回路，半導体	○			○	・電流回路について理解できる。
第３章　電流と磁場	１２	磁場，電流のつくる磁場	○			○	・電流がつくる磁場について理解できる。
		電流が磁場から受ける力	○			○	・電流と磁場の相互作用について理解できる。
		●実験　クリップモーターの製作		○	○		
		ローレンツ力	○			○	・荷電粒子が磁場から受ける力について理解できる。
第４章　電磁誘導と電磁波	８	電磁誘導の法則	○			○	・電磁誘導について理解できる。
		交流の発生	○			○	・交流の発生のしくみについて理解できる。
前期期末試験	１						
＜３年後期＞	計４８						
第４章　電磁誘導と電磁波	１２	自己誘導と相互誘導	○			○	・自己誘導，相互誘導，変圧器のしくみについて理解できる。
		交流回路	○			○	・交流回路の諸性質について理解できる。
		電磁波	○			○	・電磁波の性質と利用について理解できる。
第５編　原子 第１章　電子と光	８	電子，光の粒子性，	○			○	・電子の発見の歴史について理解できる。
		Ｘ線，粒子の波動性	○			○	・粒子性と波動性について理解できる。
第２章　原子と原子核	８	原子の構造とエネルギー準位	○			○	・原子の構造とエネルギー準位について理解できる。
		原子核，放射線とその性質	○			○	
		核反応と核エネルギー	○			○	・核反応について理解できる。
		素粒子	○			○	・素粒子の存在について理解できる。
		物理学が築く未来	○			○	・科学技術が社会の基盤となっていることを理解できる。
後期中間試験	１						
実践問題演習 （家庭学習期間）	１９						

【基本情報】

教　　科	理　　数	学　年	３年	教科書	
科　　目	ＳＳ理科Ⅲ （　化学分野　）	単位数 (年間予定コマ数)	３ (96)	副教材	化学（啓林館） 改訂版　リードα化学基礎＋化学（数研出版） 三訂版 フォトサイエンス 化学図録（数研出版）
科 目 概 要	・化学的な事物・現象に対する探究心を高め、基本的な概念や原理・法則の理解を深める。また、化学基礎で学習した内容を、さらに発展的な学習をすることによって化学基礎への理解をさらに深める。				
到 達 目 標	・気体、液体、固体の性質を観察、実験などを通して探究し、物質の状態変化、状態間の平衡、溶解平衡及び溶液の性質について理解できる。 ・化学変化に伴うエネルギーの出入り、反応速度および化学平衡をもとに化学反応に関する概念や法則を理解できる。 ・無機物質の性質や反応を観察・実験などを通して探究し、元素の性質が周期表に基づいて整理できることを理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察することができる。				
授業の進め方	・教科書の内容を基本的な要点をもとに説明を行い、演習問題や小テストを通して理解と定着をはかります。 ・実験観察を通して、実験の基本を身につけ、理科に対する興味や関心を深めていきます。				
留 意 事 項	・毎時間、　教科書・ノート　を持ってくること。 ・授業の内容をよく聞き、理解し、教科書・副教材の問題演習に取り組む。 ・提出物の期限を守ること。期限に遅れた場合は、減点になる場合がある。 ・小テストは、理解して欲しいことや覚えて欲しいことなどについて基本的な内容で行うので、学習してくること。				
家 庭 学 習	・履修した内容について、教科書と副教材の問題演習を家庭学習において解いてください。				
備　　考	・日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味をもち，その法則性について考える態度をもつこと。 ・疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。 ・学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。				

【評価の方法】

観　　点	ポイント	割　合	評価項目
Ａ．関心・意欲・態度	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身につけている。	２０％	授業ワークシート・観察・実験での取り組み状況やレポート、小テスト、定期考査など、随時観点別項目を設定し評価する。
Ｂ．思考・判断・表現	物質とその変化の中に問題を見いだし、探究する過程を通して､事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	３０％	
Ｃ．技能	観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身につけている。	２０％	
Ｄ．知識・理解	物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を整理し､知識を身につけている。	３０％	

【年間計画】

単　元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
＜　３年　前期　＞							
第３章　反応速度	１１	反応速度化学反応と触媒		○		○	・酸化還元反応によって電気エネルギーを取り出す仕組みを理解できる。
第４章　化学平衡	１７	平衡とその速度		○		○	・反応速度と濃度、温度との関係が理解できる。
		電離平衡		○		○	・平衡移動の原理を理解できる。 ・ｐＨや弱酸、弱塩基の電離平衡について理解できる。
第3部 無機物質							
第１章 非金属元素と周期表	7	周期表と元素の性質、水素と希ガス		○		○	
		ハロゲン、酸素・硫黄、窒素・硫黄、		○		○	・非金属元素の単体や化合物の性質を理解できる。
		炭素・ケイ素とその化合物		○		○	・典型元素の性質を周期表と関連させて考えることができる。
＜　３年　後期　＞							
第２章 典型金属元素	8	アルカリ金属、２族元素とその化合物		○		○	・典型金属元素の単体や化合物について，その性質や用途を理解できる。
		アルミニウム・亜鉛などとその化合物		○			
第３章 遷移元素	8	遷移元素の特徴		○		○	・遷移元素の特徴を理解し日常生活と関連させて考えることができる。
		金属イオンの分離と確認		○		○	
		●探究活動　金属イオンの分離	○		○		
第４章 生活と無機物質	2	金属の利用、セラミックス		○		○	・身の回の金属について､その性質から考えることができる。
第4部 有機化合物							
第１章 有機化合物の特徴と構造	1	有機化合物の特徴と構造	○	○			・有機化合物の特徴から、身の回りにどのように応用されているか考えることができる。
		有機化合物の分析	○	○			
第２章 脂肪族炭化水素	4	飽和炭化水素、不飽和炭化水素	○	○			
第３章 酸素を含む脂肪族化合物	8	アルコールとエーテル、アルデヒドとケトン、カルボン酸とエステル	○	○			
			○	○			
第４章 芳香族化合物	１１	芳香族炭化水素	○	○			
第５章 生活と有機化合物	2	医薬品、染料・洗剤、糖類とアミノ酸	○	○			
第5部 高分子化合物							
第１章 高分子化合物の分類と特徴	1	高分子化合物の分類と特徴 合成繊維、プラスチック、ゴム	○	○			・高分子化合物の特徴から、身の回りにどのように応用されているか考えることができる。
第２章 合成高分子化合物	7	糖類、タンパク質、核酸、繊維					
第３章 天然高分子化合物	7	衣料、高分子化合物の利用	○	○			
第４章 生活と高分子化合物	2						

【基本情報】

教　　科	理　　数	学　年	３年	教科書	
科　　目	ＳＳ理科Ⅲ （　生物分野　）	単位数 (年間予定コマ数)	３ (96)	副教材	改訂版生物（数研出版） セミナー生物基礎＋生物（第一学習社）
科目概要	第１編　生命現象と物質　　第３章　遺伝情報の発現 第２編　生殖と発生　　第４章　有性生殖　　第５章　動物の発生　　第６章　植物の発生 第３編　生物の環境応答　　第７章　植物の環境応答 第３編　生物の環境応答　　第８章　動物の反応と行動 第４編　生物と環境　　第９章　個体群と生物群集　　第１０章　生態系 第５編　生物の進化と系統　　第１１章　生物の進化　　第１２章　生物の系統				
到達目標	・タンパク質や核酸などの物質の働きを理解し、生命現象を分子レベルでとらえることができるようになる。 ・動物と植物の配偶子形成から形態形成までの仕組みを理解できるようになる。 ・生物個体が外界の変化を感知し、それに反応する仕組みを理解できるようになる。 ・生物の個体群と群集及び生態系の構造や変化の仕組みを理解することにより、生態系のバランスや生物多様性の重要性について認識する。 ・生物界の多様性と系統を理解することにより、進化についての考え方を身に付ける。 ・大学入学共通テストで全国平均を上回る学力をつける。（模試では平均偏差値５５以上）				
授業の進め方	・基本的に教科書に沿って進む。 ・教科書の実験の内容の一部は実験を行う。実験後はレポートを提出すること。 ・板書中心の授業展開になるので板書した内容を全てノートに写すこと。				
留意事項	・教科書とセミナーは併用して使用するので、教科書で基本事項を理解し、セミナーで更に理解を深め、応用力をつけること。 ・教科書とノートを必ず用意すること。問題集を使用する場合は事前に連絡する。 ・定期的にノート提出を行う。板書した内容を全てノートに写すこと。 ・実験・観察に意欲的に参加し、必ず実験レポートを提出すること。またその際、提出期限を守ること。 ・実験のときなどの教室移動は休み時間のうちに行い、始業と同時に速やかに授業が行えるようにすること。 ・忘れ物がないようにすること。もし、忘れ物がある場合は、事前に申し出ること。				
家庭学習	・問題集は、授業の進度に合わせて各自家庭で解くようにすること。				
備　　考					

【評価の方法】

観　　点	ポイント	割　合	評価項目
Ａ．関心・意欲・態度	生物や生物現象について関心や探求心をもち、主体的に探求しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	２０％	授業ワークシート、実験、観察時のレポート、小テスト、定期試験問題など、随時観点別評価項目を設定し、評価する。
Ｂ．思考・判断・表現	生物や生物現象の中に問題を見いだし、探求する過程を通して､事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	３０％	
Ｃ．観察・実験の技能	生物や生物現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探求する技能を身に付けている。	２０％	
Ｄ．知識・理解	生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けている。	３０％	

【年間計画】

単　元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
〈３年前期〉							
２ 遺伝子と染色体	８	遺伝子の連鎖と組換えについて 遺伝子と染色体について					て理解する。
第５章　動物の発生							
１ 配偶子形成と受精	６	配偶子形成と受精について					配偶子形成と受精の過程について、卵割から器官分化の始まりまでの過程を理解する。
２ 初期発生の過程	６	初期発生の過程について	○	○			細胞の分化と形態形成の仕組みを理解する。
３ 細胞の分化と形態形成	４	細胞の分化と形態形成について	○	○			
４ 器官の形成と細胞の死	２	アポトーシスについて	○			○	
第６章　植物の発生							配偶子形成と受精及び胚発生の過程について理解する。
１ 配偶子形成と胚発生	７	配偶子形成と受精、胚発生について 植物の器官の分化について	○	○			被子植物の器官の分化の過程について理解する。
第７章　植物の環境応答							植物が環境変化に反応する仕組みを理解する。
１ 植物の環境応答と植物ホルモン	５	植物ホルモンについて　刺激の受容と反応について	○	○			
２ 植物の環境応答とそのしくみ	３	植物の光に対する応答と花芽形成について	○			○	
〈３年後期〉							
第８章　動物の反応と行動							
１ 刺激の受容と反応	８	刺激の受容、神経系、効果器と反応について	○		○		刺激に対する反応としての動物個体の行動について理解する。
２ 動物の行動	３	生得的な行動、学習による行動について	○			○	外界の刺激を受容し神経系を介して反応する仕組みを理解する。
第９章　個体群と生物群集							
１ 個体群	６	個体群内や個体群間の相互作用について	○	○			個体群とその変動について理解する。
２ 生物群集	６	環境形成作用と多種の共存について	○	○			生物群集の成り立ちについて理解する。
第１０章　生態系							
１ 生態系の物質生産	５	生態系の物質生産について					
２ 生態系と生物多様性	３	生態系と生物多様性について			○	○	生態系における物質生産とエネルギー効率について理解する。 生態系における生物多様性に影響を与える要因を理解し、生物多様性の重要性を認識する。
第１１章　生物の進化							
１ 進化のしくみ	５	進化の仕組みについて	○				
２ 生物の起源と生物の変遷	３	生命の起源と生物の変遷について		○	○	○	生命の起源と生物進化の道筋について理解する。
第１２章 生物の系統							
１ 生物の分類の変遷と系統	３	生物の系統について	○	○			
２ 生物の系統関係	３	真核生物ドメインにおける系統関係について	○			○	生物はその系統に基づいて分類できることを理解する
共通テスト対策 （家庭学習期間）	１０	過去問や予想問題の演習					

【基本情報】

教　　科	理　　数	学　年	３年	教科書	
科　　目	ＳＳ理科Ⅲ （　地学分野　）	単位数 (年間予定コマ数)	３ (96)	副教材	地学基礎（啓林館）・地学（啓林館） ニューステージ新地学図表（浜島書店） チェック＆演習 地学基礎（数研出版）・センサー地学（啓林館）
科 目 概 要	・地球や地球を取り巻く環境についての基本的な概念や原理・法則について、身近な自然現象との関連を図りながら学習する。地学的な探究活動を通して、科学的な見方や考え方を身につける。さらに発展的な学習をすることによって地学への理解をさらに深める。				
到 達 目 標	・日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め，地学的に探究する能力と態度を身につける。 ・地学の基本的な概念や原理・法則を理解し，科学的な見方や考え方を身につける。 ・大学入学共通テスト「地学基礎」「地学」に対応するために必要とされる知識や思考力を身につける。。				
授業の進め方	・教科書・図表を基にした講義を中心に授業を進める。 ・学習内容に関わる探究活動を行うことで、知識や理解の定着を図る。				
留 意 事 項	・教科書・副教材（図表・問題集）・ノート・ワークシート等を綴じるファイルを持ってくること。 ・グループで実習を行う際には、積極的参加しメンバーと協力すること。 ・忘れ物をした場合は、事前に申し出ること。提出物の期限を守ること。期限に遅れた場合は、減点になる場合がある。。 ・講義に対して、質問するなどの積極的な姿勢を歓迎する。				
家 庭 学 習	・履修した内容について、教科書と副教材の問題演習を家庭学習において解いてください。				
備　　考	・日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味をもち，その法則性や仕組みについて、学習内容と関連づけて考える態度をもつこと。 ・疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。 ・学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。				

【評価の方法】

観　　点	ポイント	割　合	評価項目
Ａ．関心・意欲・態度	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境について関心を持ち、意欲的に探究しようとするとともに、地学的な事物や自然現象の概念について科学的な見方や考え方でとらえようとする。	２０％	授業ワークシート・観察・実験での取り組み状況やレポート、小テスト、定期考査など、随時観点別項目を設定し評価する。
Ｂ．思考・判断・表現	地球や地球を取り巻く環境に関する事物や自然現象に対して、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	３０％	
Ｃ．技能	地球や地球を取り巻く環境に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	２０％	
Ｄ．知識・理解	地球や地球を取り巻く環境について、基本的な概念や原理・法則を整理し、知識を身につけている。	３０％	

【年間計画】

単　元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
＜　３年　前期　＞ **第１部 固体地球の概観と活動**		・重力の観測，地震波の観測，地殻熱流量の観測，地磁気の観測などから，地球内部の様子がわかることを学ぶ。					・重力の観測，地震波の観測，地殻熱流量の観測，地磁気の観測などから，地球内部の様子がわかることを理解する。
第１章 地球の概観 第２章 プレートテクトニクス	６ １５	・プレートの生成・移動で統一的に理解しようとするプレートテクトニクスの枠組みについて学び，プレートテクトニクスとマントルの動きについて理解する。	○	○ ○	○	○ ○	・種々の地学現象を，プレートの生成や移動で統一的に理解しようとするプレートテクトニクスの枠組みについて学び，プレートテクトニクスとマントルの動きについて理解する。
第３章 地球の活動	１０	・地震や地殻変動，火山の噴火や火成岩の形成などのさまざまな地球の活動を，プレートの運動と関連させて学ぶ。	○	○	○	○	・地震や地殻変動，火山の噴火や火成岩の形成などのさまざまな地球の活動を，プレートの運動と関連させて理解する。
<u>第２部 地球の歴史</u> 第1章 地表の変化と地層	９	・地層がどのように積み重なり，どのように広がって分布しているか表す地質図について学ぶ。また，造山運動による地質構造や変成岩の形成，地層から情報を読み取って地質時代を組み立てることを学ぶ。	○	○	○	○	・地層がどのように積み重なり，どのように広がって分布しているか表す地質図について理解する。 ・造山運動による地質構造や変成岩の形成，地層から情報を読み取って地質時代を組み立てることを理解する。
第２章 地球・生命・環境の歴史	８		○	○	○		
第３章 私たちの日本列島	１０	・生命活動の場である地球表層の地殻や大気・海洋と，生物が，46億年に及ぶ地球史の中でどのように変化してきたのかを学ぶ。 ・日本に産する岩石や地層の記録から，日本列島の起源や成長の歴史を学ぶ	○	○		○	・生命活動の場である地球表層の地殻や大気・海洋と，生物が，46億年に及ぶ地球史の中でどのように変化してきたのかを理解する。 ・日本に産する岩石や地層の記録から，日本列島の起源や成長の歴史を理解する。
＜　３年　後期　＞ **<u>第３部 大気と海洋</u>** 第１章 大気の構造	８	・大気中の水が気象に果たしている役割をとらえ，雨や雲の形成について学ぶ。また，地球全体のエネルギー収支について学ぶ。	○			○	・大気中の水が気象に果たしている役割をとらえ，雨や雲の形成について理解する。 ・地球全体のエネルギー収支について理解する。
第２章 大気の運動	１５	・風の吹き方と大気の大循環について学び，世界と日本の気候に結びつけて理解する。		○	○	○	・風の吹き方と大気の大循環について理解し、世界と日本の気候に結びつけて理解する。
第３章 海洋と海水の運動	１０	・地球環境の形成や維持に大きな役割を果たしている海洋の構造と，海流や深層循環などの海洋の循環，津波や潮汐などの海水の運動について学ぶ。	○	○	○	○	・地球環境の形成や維持に大きな役割を果たしている海洋の構造と，海流や深層循環などの海洋の循環，津波や潮汐などの海水の運動について理解する。
第４章 気候変動と地球環境	１０	・エルニーニョ現象などの自然な気候変動と，気候変動を引き起こす可能性がある人間の活動について，地球表層の物質の循環・輸送と関連づけて学ぶ。	○	○	○	○	・エルニーニョ現象などの自然な気候変動と，気候変動を引き起こす可能性がある人間の活動について，地球表層の物質の循環・輸送と関連づけて理解する。
<u>第５部 自然との共生</u> 地球環境と人類 自然災害と防災 に関する探究活動	１５	・地球環境と人類または自然災害と防災に関する探究活動を行う。	○	○	○	○	・地球環境と人類、自然災害と防災に関する探究活動を通して、諸課題に対する自身の意見を表現することができる。

４．科目別シラバス

科　目　名	体　育	単　位　数（年間予定コマ数）	２（６４）	学　年	３
教　科　書	現代高等保健体育（大修館書店）	副　教　材	アクティブスポーツ総合版（大修館書店）		

科目の概要	各種運動の合理的・計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また自己の状況に応じて体力の向上を図り、公正・協力・責任などの態度を育てるとともに、健康・安全に努め、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。
科目の到達目標	３年次選択制体育のねらい (1)　自己の状況(体力・得意不得意)に応じた運動の領域・単元・種目を選択して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質・能力を身につけさせる。 (2)　合理的・計画的な授業の実践を生徒自らが行えるようにさせる。 (3)　健康・安全面の配慮・確保を自他共に実践できる資質を養わさせる。 (4)　運動・スポーツに対する意欲・関心を高めるとともに公正・協力・責任・参画の態度を養わさせる。
授業の進め方	*選択の仕方* ①　一人の生徒は１年間（４月～１２月）に３種目(Ａから１つ、Ｂから１つ、Ｃから１つ)を選択します。 ②　選択した種目ごとに班（グループ ）ができ、その班ごと(グループごと)に全体の授業計画や毎時間の授業計画を立てます。 *授業展開* ①用具・施設の準備（種目ごとで役割分担・担当決め） ②準備体操（体操・柔軟運動・ストレッ チ・筋肉トレーニング等）※リーダー決め ③本時の授業について打ち合わせ・ミーティング ④活動（集団の目標・個人の目標にそった活動） ⑤後片づけ（モップ清掃、コート・グラウンド整備も含む） ⑥本時の授業反省（集団の目標に対して）と個人の活動記録・反省等をファイルに記入。次時の授業についてミーティング。 ⑦巡回体育教員から指導・助言 ⑧解散（種目ごと解散・更衣・次の授業の準備）

評価規準	観点別	意欲・関心・態度	思考・判断・協力・責任・公正	知識・理解	運動技能
	評価の観点	① 全体を通して積極的に参加し、自己の言動が班員に良い影響を与えることができか。 ② 運動・種目に対して適切な身なりで活動できたか。 ③ 教える側・教わる側の姿勢を身につけたか。意見を伝える・話を聞き受け入れる姿勢を身につけたか。 ④活動・運動に適したＷ－ＵＰやＣ－ＤＯＷＮを実践することができたか。	① 単元計画・授業計画に自分の考えを反映させたり、決まった計画の遂行のために協力することができたか。 ② やるべき事や徹底事項を自ら守り、班全体の活動の活性化に寄与する言動をしてきたか。 ③ 時間の有効活用に努めるとともに、班の中で不平等感がない活動を実践することができたか。 ④ 安全に留意した上での活動ができたか。	① 競技のルール・マナー等を 理解し遵守することができた か。 ② ゲームや発表会などの運営 にうまく携わることができた か。 ③ 記録をまとめたり、次の活 動のためのノートづくりでき たか。 ④ 練習内容や練習方法の研究 をしてきたか。	① 自分が立てた個人の目 標に到達できましたか。 ② 自分たちが立てた集団 の目標に到達できました か。 ③ 技能のレベルは上がり ましたか。作品の完成度 は上がりましたか。 ④ 体力の維持・向上に努 め、成果につながりまし たか。
	比重	25%	25%	25%	25%
	評価方法	これらの観点を、生徒の個人ノートの内容と自己評価並びに巡回教諭が毎時間評価したものを、総合的に判断する。	これらの観点を、生徒の個人ノートの内容と自己評価並びに巡回教諭が毎時間評価したものを、総合的に判断する。	これらの観点を、生徒の個人ノートの内容と自己評価並びに巡回教諭が毎時間評価したものを、総合的に判断する。	これらの観点を、生徒の個人ノートの内容と自己評価並びに巡回教諭が毎時間評価したものを、総合的に判断する。

授業を受けるにあたっての留意点 など	・上記目標を達成するためには、健康・安全に留意し、自ら積極的に授業に参加することが大切である。 ・個人的成長はもちろん、集団行動を通して、協調性などの社会的態度を身につけることが求められる。 ・時間や服装、ノート提出などの決まりをしっかりと守る態度がとれるようになる。。
家庭学習	教科書・副教材をもとに授業計画を立てる上で必要となる、知識や練習方法などの情報収集に努める。
備考	

単元名と単元の内容	配当時数	学習内容・学習のポイント	到達目標（評価の観点）
体つくり運動 ※体力テストの実施	4	【体力を高める運動】 体力の三要素をさらに理解し、各要素の違いを体験する。 スポーツをする上で特に必要と考えられる筋力を専門的に高める。 【体ほぐしの運動】 体を動かす楽しさや心地よさを味わい健康の保持増進を図り、実生活に役立てるようにする。 【新体力テスト】３年目の実施	**観点①**　持久性・スピード・筋力の向上を目的とした運動を考え、実践できたか。 **観点②**　ウォーミングアップ・クーリングダウンの重要性と方法を理解し適切に実践できたか。 **観点③**　体ほぐしの運動の目的・方法を理解し、心も体もリラックスできる運動を実践できたか。
選択Ａ・Ｂ 【グランド使用可の時に実施する選択種目】 ａ　テニス(６人～２４人) ｂ　ゴルフ(２人～１０人) ｃ　ソフトボール(１６人～４０人) ｄ　サッカー(１０人～３３人) ｅ　陸上競技(２人～１０人) ｆ　その他 【ａ～ｆの中からＡ1種目、Ｂ1種目を選択。（　）内の人数は開設人数枠】 ※ただし、選択Ａと選択Ｂは異種目を選択すること。 **選択Ｃ・Ｄ** 【荒天時のグランド使用が不可の時、または選択Ａ・Ｂが終了以降に実施する選択種目】 ａ　バレーボール(１２人～２６人) ｂ　バスケットボール(１０人～２４人) ｃ　バドミントン（２人～２４人） ｄ　卓球（２人～２４人） ｅ　トレーニング・ダンス(２人～２０人) ｆ　その他 【ａ～ｆの中からＣ１種目、Ｄ1種目選択。（　）内の人数は開設人数枠】 ※ただし、選択Ｃと選択Ｄは異種目を選択すること。	Ａ１２ Ｂ１２ Ｃ１０ Ｄ１０	***選択の仕方*** ①　一人の生徒は１年間に４種目を選択します。１・２種目目はグランド使用可の時の実施【それぞれ選択Ａ・選択Ｂと呼びます】、３種目目と４種目目は荒天時のグランド使用が不可の時または選択Ａ・Ｂが終了以降に実施するもの【選択Ａを１２時間・選択Ｂを１２時間】です。 ②　選択した種目ごとに班（グループ ）ができ、その班ごと(グループごと)に全体の授業計画や毎時間の授業計画を立てます。 ***各種目の内容*** **［サッカー］［テニス］［ソフトボール］［バレーボール］［バスケットボール］［バドミントン］［卓球］** 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連係した動きを高めてゲームが展開できるようにする。 **［陸上競技］**　記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、各種目特有の技能を高めることができるようにする。 **［器械運動］**　技がよりよくできる楽しさや喜びを味わい、自己に適した技を高めて、演技することができるようにする。 **［柔道］**　技を高め、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、得意技を用いた攻防が展開できるようにする。 **［ダンス］**　感じを込めて踊ったり、仲間と自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、それぞれ特有の表現や踊りを高めて交流や発表ができるようにする。 **［ゴルフ］**　生涯スポーツとして人気の高い種目を理解し実践することを通して、特有の楽しさ味わい、技能を身につけることができるようにする。	「選択Ａ」「選択Ｂ」「選択Ｃ」「選択Ｄ」ともに次の観点①～④で評価していく。 **観点①　意欲・関心・態度【２５％】** (a)　全体を通して積極的に参加し、自己の言動が班員に良い影響を与えることができか。 (b)　運動・種目に対して適切な身なりで活動できたか。(服装・髪型・靴・帽子・手袋等) (c)　教える側・教わる側の姿勢を身につけたか。意見を伝える・話を聞き受け入れる姿勢を身につけたか。 (d)　活動・運動に適したＷ－ＵＰやＣ－ＤＯＷＮを実践することができたか。 **観点②　思考・判断・協力・責任・公正【２５％】** (a)　単元計画・授業計画に自分の考えを反映させたり、決まった計画の遂行のために協力することができたか。 (b)　やるべき事や徹底事項を自ら守り、班全体の活動の活性化に寄与する言動をしてきたか。 (c)　時間の有効活用に努めるとともに、班の中で不平等感がない活動を実践することができたか。 (d)　安全に留意した上での活動ができたか。 **観点③　知識の理解【２５％】** (a)　競技のルール・マナー等を理解し遵守することができたか。 (b)　ゲームや発表会などの運営にうまく携わることができたか。 (c)　記録をまとめたり、次の活動のためのノートづくりできたか。 (d)　練習内容や練習方法の研究をしてきたか。 **観点④　運動技能【２５％】** (a)　自分が立てた個人の目標に到達できましたか。 (b)　自分たちが立てた集団の目標に到達できましたか。 (c)　技能のレベルは上がりましたか。作品の完成度は上がりましたか。 (d)　体力の維持・向上に努め、成果につながりましたか。
体育理論	6	**豊かなスポーツライフの設計** ①生涯スポーツの見方・考え方 ②ライフスタイルに応じたスポーツ ③日本のスポーツ振興 ④スポーツと環境	各項目ごとに、座学を中心とした授業を行い、小テストを実施する。その評価は「知識・思考・判断」の観点に反映させる。
家庭学習期間	（１０）		
	合計６４		

【基本情報】

教　　科	保健体育	学　年	３年	教科書	
科　　目	スポーツＡ	単位数 (年間予定コマ数)	２ (64)	副教材	現代高等保健体育（大修館書店） アクティブスポーツ総合版（大修館書店）
科目概要	各種運動の合理的・計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また自己の状況に応じて体力の向上を図り、公正・協力・責任などの態度を育てるとともに、健康・安全に努め、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。				
到達目標	**スポーツＡのねらい** (1)　３年選択体育の種目をさらに深く学び、技能や知識を高める。 (2)　自己の状況(体力・得意不得意)に応じた運動の領域・単元・種目を選択して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質・能力を身につけさせる。 (3)　合理的・計画的な授業の実践を生徒自らが行えるようにさせる。 (4)　健康・安全面の配慮・確保を自他共に実践できる資質を養わさせる。 (5)　運動・スポーツに対する意欲・関心を高めるとともに公正・協力・責任・参画の態度を養わさせる。				
授業の進め方	***選択の仕方*** ①　３年選択体育の種目から１種目を選択し実施する。種目変更の時期は学びの深まりの度合いに応じて適宜設定する。 ②　選択した種目ごとに班（グループ ）ができ、その班ごと(グループごと)に全体の授業計画や毎時間の授業計画を立てます。 ***授業展開*** ①用具・施設の準備（種目ごとで役割分担・担当決め） ②準備体操（体操・柔軟運動・ストレッ チ・筋肉トレーニング等）※リーダー決め ③本時の授業について打ち合わせ・ミーティング ④活動（集団の目標・個人の目標にそった活動） ⑤後片づけ（モップ清掃、コート・グラウンド整備も含む） ⑥本時の授業反省（集団の目標に対して）と個人の活動記録・反省等をファイルに記入。次時の授業についてミーティング。 ⑦巡回体育教員から指導・助言 ⑧解散（種目ごと解散・更衣・次の授業の準備）				
留意事項	１　上記目標を達成するためには、健康・安全に留意し、自ら積極的に授業に参加することが大切である。 ２　個人的成長はもちろん、集団行動を通して、協調性などの社会的態度を身につけることが求められる。 ３　時間や服装、ノート提出などの決まりをしっかりと守れないと減点する。				
家庭学習	教科書・副教材をもとに授業計画を立てる上で必要となる、知識や練習方法などの情報収集に努める。				
備　　考					

【評価の方法】

観　点	ポイント	割　合	評価項目
Ａ．関心・意欲・態度	① 全体を通して積極的に参 加し、自己の言動が班員に 良い影響を与えることができたか。 ② 運動・種目に適切な身なりで活動できたか。 ③ 教える側・教わる側の姿勢を身につけたか。 ④活動・運動に適したＷ－ＵＰやＣ－ＤＯＷＮを実践することができたか。	２５％	これらの観点を、生徒の個人ノートの内容と自己評価並びに巡回教諭が毎時間評価したものを、総合的に判断する。
Ｂ．思考・判断・協力・責任・公正	① 単元計画・授業計画に考えを反映させたり、計画の遂行のために協力することができたか。 ② やるべき事や徹底事項を自ら守り、班全体の活動の活性化に寄与する言動をしてきたか。 ③ 班の中で不平等感がない活動を実践することができたか。 ④ 安全に留意した上での活動ができたか。。	２５％	これらの観点を、生徒の個人ノートの内容と自己評価並びに巡回教諭が毎時間評価したものを、総合的に判断する。
Ｃ．知識・理解	① 競技のルール・マナー等を理解し遵守することができたか。 ② ゲームの運営に携わることができたか。 ③ 記録をまとめたり、ノートづくりできたか。 ④ 練習内容や練習方法の研究 をしてきたか。	２５％	これらの観点を、生徒の個人ノートの内容と自己評価並びに巡回教諭が毎時間評価したものを、総合的に判断する。
Ｄ．運動技能	① 個人の目標に到達できたか。 ② 自集団の目標に到達できたか。 ③ 技能のレベルは上がったか。 ④ 体力の維持・向上に努め、成果がでたか。	２５％	これらの観点を、生徒の個人ノートの内容と自己評価並びに巡回教諭が毎時間評価したものを、総合的に判断する。

【年間計画】

単　元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
体つくり運動	**６**	【体力を高める運動】 　体力の三要素をさらに理解し、各要素の違いを体験する。 　スポーツをする上で特に必要と考えられる筋力を専門的に高める。 【体ほぐしの運動】 　体を動かす楽しさや心地よさを味わい健康の保持増進を図り、実生活に役立てるようにする。	○	○	○	○	**観点①**　持久性・スピード・筋力の向上を目的とした運動を考え、実践できたか。 **観点②**　ウォーミングアップ・クーリングダウンの重要性と方法を理解し適切に実践できたか。 **観点③**　体ほぐしの運動の目的・方法を理解し、心も体もリラックスできる運動を実践できたか。
選択Ａ・Ｂ 【グランド使用可の時に実施する選択種目】 ａ　テニス ｂ　ゴルフ ｃ　ソフトボール ｄ　サッカー ｅ　陸上競技 ｆ　その他 **選択Ｃ・Ｄ** 【荒天時、選択Ａ・Ｂの終了後に実施する選択種目】 ａ　バレーボール ｂ　バスケットボール ｃ　バドミントン ｄ　卓球 ｅ　トレーニング・ダンス ｆ　その他	**Ａ１２** **Ｂ１２** **Ｃ１２** **Ｄ１２** **４８**	①　一人の生徒は１年間に最低４種目以上を選択します。１・２種目目はグランド使用可の時の実施【選択Ａ・選択Ｂ】、３・４種目目は荒天時のグランド使用が不可の時または選択Ａ・Ｂが終了以降に実施するもの【選択Ｃ・選択Ｄ】です。 ②　選択した種目ごとに班（グループ）ができ、その班ごと（グループごと）に全体の授業計画や毎時間の授業計画を立てます。 ***各種目の内容*** **［サッカー］［テニス］［ソフトボール］［バレーボール］［バスケットボール］［バドミントン］［卓球］** 　勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連係した動きを高めてゲームが展開できるようにする。 **［陸上競技］**　記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、各種目特有の技能を高めることができるようにする。 **［器械運動］**　技がよりよくできる楽しさや喜びを味わい、自己に適した技を高めて、演技することができるようにする。 **［柔道］**　技を高め、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、得意技を用いた攻防が展開できるようにする。 **［ダンス］**　感じを込めて踊ったり、仲間と自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、それぞれ特有の表現や踊りを高めて交流や発表ができるようにする。 **［ゴルフ］**　生涯スポーツとして人気の高い種目を理解し実践することを通して、特有の楽しさ味わい、技能を身につけることができるようにする。	○	○	○	○	「選択Ａ」「選択Ｂ」「選択Ｃ」「選択Ｄ」ともに次の観点①～④で評価していく。 **観点①**　意欲・関心・態度【２５％】 (a)　全体を通して積極的に参加し、自己の言動が班員に良い影響を与えることができか。 (b)　運動・種目に対して適切な身なりで活動できたか。（服装・髪型・靴・帽子・手袋等） (c)　教える側・教わる側の姿勢を身につけたか。意見を伝える・話を聞き受け入れる姿勢を身につけたか。 (d)　活動・運動に適したＷ－ＵＰやＣ－ＤＯＷＮを実践することができたか。 **観点②**　**思考・判断・協力・責任・**公正【２５％】 (a)　単元計画・授業計画に自分の考えを反映させたり、決まった計画の遂行のために協力することができたか。 (b)　やるべき事や徹底事項を自ら守り、班全体の活動の活性化に寄与する言動をしてきたか。 (c)　時間の有効活用に努めるとともに、班の中で不平等感がない活動を実践することができたか。 (d)　安全に留意した上での活動ができたか。 **観点③**　知識の理解【２５％】 (a)　競技のルール・マナー等を理解し遵守することができたか。 (b)　ゲームや発表会などの運営にうまく携わることができたか。 (c)　記録をまとめたり、次の活動のためのノートづくりできたか。 (d)　練習内容や練習方法の研究をしてきたか。 **観点④**　運動技能【２５％】 (a)　自分が立てた個人の目標に到達できましたか。 (b)　自分たちが立てた集団の目標に到達できましたか。 (c)　技能のレベルは上がりましたか。作品の完成度は上がりましたか。 (d)　体力の維持・向上に努め、成果につながりましたか。
家庭学習期間	（１０）						
合　計	**６４**						